

鶴岡に中高一貫校

一平
27
山新

再編案に賛否 県教委が決定 計画、1年超遅れ

地元から賛否両論が出ていた庄内地域への中高一貫教育校の設置を含む田川地区の県立高校再編整備計画案について、県教育委員会は26日の臨時会で審議し、全会一致で可決した。鶴岡市を設置場所とした県教委の計画案に酒田市内などが反発。機会を設け、地区内で議論を重ね、当初予定より約1年2カ月遅れで計画が決定。県内2校目となる併設型中高一貫校が開校に向け動き出す。

酒田市長「丁寧な説明願う」



田川地区の県立高校再編整備計画を決定した県教育委員会の臨時会

県教委は2017年10月、鶴岡南と鶴岡北の両高を統合し県立中学校を新設する併設型中高一貫校などを含め、県立8校を4校にする田川地区の高校再編整備計画案を公表した。これに対し、地元からは「もっと幅広く意見を聞いてほしい」「議論を重ねてから判断すべき」との意見が噴出。一年以上かけて賛否を問いつつながら意見交換を重ね、酒田市の「酒田、鶴岡の地域バランスが崩れる」などと鶴岡南高を拠点とする設置案に対して反対を表明していた。

協議を続ける中で、開校時期は当初の「24年度開校予定」から「24年度以降、できるだけ早い時期」に見直された。具体的な開校時期は今後策定する教育基本計画で「示す方針。中高一貫校は基本的に鶴岡南の校舎

を高校で、鶴岡北の校舎は中学校での活用を想定している。

この日の臨時会での審議では、委員から「議論は尽くされた」「いつまでも決まらなければ保護者が不安になる」などと計画決定に対する賛成意見が相次ぎ、原案通り可決された。その一方で「今後も幅広い意見を聞きながら進めてほしい」との要望も出された。会議終了後、報道陣の取材に対し広瀬渉教育長は「計画決定後も関係者や地域の理解を求め、丁寧に進める」と説明。計画案に反対する酒田市の北庄内、酒田の高校への配慮を求めている点については「今後、検討する」と述べた。

酒田市の丸山至市長は、計画決定について「酒田光陵高工業科の1学級削減の延期を要望した時と同様、地域の思いを聞き入れてもらえず残念。権限は県教委にあり、決定したからには庄内全体に丁寧な説明をお願いしたい」と語った。鶴岡市の皆川治市長は

「市も新年度に独自の調査などを行い、開校に向けた機運を高める」、吉村美栄子知事は「生徒、保護者、地域の期待に応じられる学校となるようしっかりと準備してほしい」とのコメントをそれぞれ発表した。

一方、「中高一貫校並びに田川地区の高校再編を考える市民の会」は「決定は拙速であり、断固抗議する」との声明を出した。

山形の県立高再編へ 8校を4校に統廃合

〈山形〉県教育委員会は26日、田川地区の県立高校について、8校を4校に再編する整備計画を賛成多数で可決した。

計画では鶴岡南と鶴岡北を統合し、県立中学を併設した「庄内中高一貫校（仮称）」を平成36年度以降のできるだけ早期に新設。鶴岡中央、加茂水産、庄内農業の3校を統合し、普通科、農業科、水産科、総合学科の4科を併設する。庄内総合高校には定時制、通信制を新設し、鶴岡工業は単科型専門高校に再編。鶴岡南山高校は32年度に募集停止する。

開校は24年度以降

3/27 毎日

県教委 鶴岡に中高一貫校

県教育委員会は26日、鶴岡市内で2024年度の開校を目指していた中高一貫校について、24年度以降に開校する方針を決めた。県立鶴岡南と鶴岡北の統合、県立中学の新設という大枠は変わらないが、「24年度の計画

は厳しくなっている」として、従来計画より開校は遅れる見通しとなった。

県庁で同日開かれた臨時会で、県教委事務局長は今日18日に庄内地区2市3町の代表者を集めた懇談会の意見を紹介。鶴岡市、三川町、

庄内町、遊佐町から確定的な意見が出る一方、酒田市からあくまで反対だが、どうしてもあるなら北庄内、酒田市に配慮を」との声が出たことも伝えた。

これらを踏まえた県立高校再編整備計画については、委員から10

年、20年生を考えると現段階で一番いい制度設計」「反対の酒田市も少し理解できる方向にきた」「これ以上後退する流れはな

いなどの意見が出て、原案通り可決した。19年度以降、教育基本計画を策定するなどして開校準備を進める。

【江連龍弘】

「残念な結果」

丸山・酒田市長
県教委が設置する中高一貫校が鶴岡南、鶴岡北両校の敷地・校舎を活用するといったことについて、酒田市の丸山至市長は26日、「鶴岡南

以外を拠点にしてほしいとお願ひしてきただ。大変残念な結果になったと責めざるを得ない。決定したからには庄内地域全体に丁寧な説明をお願ひしたい」とコメントを出した。

酒田市配慮求める

懇談会

山新 平み 2/18
庄内中高一貫校の設置計画

県教育委員会は18日、鶴岡市に設置を計画している中高一貫教育校について、庄内5市町の副首長、教育長との第2回懇談会を三川町の県庄内総合支庁で開いた。各市町から賛成、容認の意見が相次ぐ中、酒田市は前回同様に対抗を示し「どうしても設けるのであれば北庄内、酒田の高校にも地域の希望に合った配慮をしてほしい」と求めた。

県教委は26日の臨時教育委員会でも可否を判断する。設置時期について前回、

当初計画の2024年度開校が厳しいとの認識を示した広瀬渉県教育長は懇談会終了後、取材陣に対し「地域への丁寧な説明が必要。開校時期は可否を決めた後の話になる」と述べた。

県教委はこの日、酒田市から前回懇談会で「酒田、鶴岡の地域バランスが崩れる」との指摘を受けたことに関し、「中高一貫教育の選択肢を提供することにより、庄内地区全体の教育環境の充実を図ることが重要」との見解を説明。設置方針が決まった場合、保護者らを対象に学校像に関する説明会を庄内全域で開くことや、▽入学者選抜は小学校の学習で十分対応できる適性検査問題にする▽開校準備段階での教職員の負担軽減に努める一などの考えを示した。

17年10月に「鶴岡市を中高一貫教育校の設置案について意見交換などが行われた第2回懇談会

三川町・県庄内総合支庁



17年10月に「鶴岡市を中高一貫教育校の設置案について意見交換などが行われた第2回懇談会

三川町・県庄内総合支庁

含む）田川地区の県立高校再編整備計画」の中で提示した計画案は鶴岡南、鶴岡北の両高校を統合し県立の新中学校を併設するとしてが、賛否両論あり、先月の前回懇談会では鶴岡市、三川町、庄内町が賛成、酒田市が反対、遊佐町は「基本的には異議を挟むものではない」としていた。

（三沢秀樹）

庄内の中高一貫校設置案で県教育長

24年度開校は「厳しい」

鶴岡市の鶴岡南高と鶴岡北高を統合し、県立の新中学校を併設する県教育委員会の中高一貫教育校設置案について、広瀬県教育長は12日、目指していた2024年度の開校が厳しいとの認識を示した。庄内町の響ホールで開催した庄内5市町の代表者との懇談会で明らかにした。

設置案は、県教委が17年10月に公表した「田川地区（鶴岡市を含む）の県立高校再編整備計画」の中で、庄内各市町の中学卒業生数の見直しや高校再編の進捗よく状況を考慮し提示した。賛否両論あり、広瀬教

育長は懇談会で開校時期について問われ、「計画公表から1年半（近く）が経過した。この段階では（24年度は）かなり厳しいという認識がある」と答えた。懇談会終了後、報道陣の質問に広瀬教育長は「10年

以上議論し、自信を持って示した案だが、24年度の開校にこだわらざる必要ないことを進めなければならない」と説明した。

庄内の中高一貫教育校設置案を巡っては、県教委が昨年未だに行った意向調査で鶴岡市、三川町、庄内町が賛成、酒田市が反対の立場を示した。遊佐町は庄内への設置自体に反対としていたが、懇談会が設けられたことを受け「異論をほさむものではない」と

方針を変えた。

懇談会は県教委が初めて開催。県教委の代表者のほか、5市町の副市長、副町長、教育長が出席した。三川町は「今が設置する絶好の機会」、鶴岡市は「子どもたちの選択肢を増やす環境をできるだけ早く整備すべきだ」などと賛成意見を述べた。一方、酒田市は「それぞれに鶴岡南高、酒田東高という進学高がある鶴岡と酒田のバランスが崩れ、まちづくりにも大きな影響を与える」と主張。鶴岡南高、鶴岡北高以外を拠点とするよう求めた。

県教委は今後の再編整備の進め方について、この日出席した意見を整理した上で意見交換の場を設けるかを含めて検討する。



庄内地域への中高一貫教育校設置案について県教委と庄内5市町の代表者が意見交換した懇談会。＝庄内町・響ホール

N04-3

新高山 中高一貫校改めて反対

酒田市長「まちづくりりに影響」

鶴岡市の鶴岡南高と鶴岡北高を統合した上で同市内に県立中学校を新設する県教育委員会の中高一貫教育校設置案について、丸山至酒田市長は4日、定例記者会見で「庄内地方では教育面でも酒田、鶴岡両市がライバル意識の中で人材を輩出してきた歴史がある。それが大きく変わるといふ危惧を抱いている」と述べ、改めて反対する考えを示した。

丸山市長は中高一貫校自体を否定するものではないとしつつ「鶴岡・田川地区の高校再編とセットにするのはおかしな話だし、出し方が非常に悪い」と苦言。人材輩出に関する「危惧」を述べた上で「教育は今後のまちづくりに影響を与えらる。県教委には地域に寄り添った教育制度を考えてもらいたい」と述べた。

設置案に関して丸山市長は先月、県教委の意向調査に対して反対の立場を示しており、「市民や市教委、

ND4-4

市議会の意見も踏まえて回答した。これを重いものだと県教委には認識してほしい」と話した。

(鈴木潤)

平30.12.27 新高山 鶴岡への中高一貫校設置案

庄内首長賛否割れる

鶴岡市の鶴岡南高と鶴岡北高を統合した上で同市内に県立中学校を新設する県教育委員会の中高一貫教育校設置案について、地元庄内の首長の賛否が割れている。鶴岡市の皆川治市長は26日、賛成の意向を県教委に伝えた。同日までに三川町の阿部誠町長も前向きな回答をしたが、酒田市の丸山至市長、遊佐町の時田博機町長は反対、庄内町の原田真樹町長は条件付き賛成で回答した。これを受けた県の判断に注目が集まる。

(本紙取材班)

県教委の判断に注目

庄内地方への中高一貫教育「備計画」の中で、各自自治体育モデル校の設置案は、県教委が2017年10月に公表した「田川地区(鶴岡市を含む)の県立高校再編整備」の県立高校再編整備年度の開校を目指している

一方、酒田市長は庄内地方への設置の意義は認められたものの、同程度の人口規模の鶴岡市と酒田市にある鶴岡南高、酒田東高が、進学高としてそれぞれの地域の教育をけん引してきた風土を重視。庄内の進学高が統合高校1校になりかねない可能性を懸念し、現在の案に反対した。設置する場合は、鶴岡南高以外を拠点にするなど求めた。

遊佐町長は田川地区の事情に合わせた計画であると、庄内への設置自体に反対。「庄内全体の意見聴取・議論がないまま進められたのではないかと疑問を投げ掛けた。

三川町長は詳細を明かしていないが、現在の案に前向きな回答をしたとしている。

庄内町長は、鶴岡、酒田だけでなく庄内各地の中学や住民に設置の趣旨、具体的内容を説明し、理解を深める機会を設けることを条件に現在の案に賛成した。

県教委は各首長の回答を「今後の判断の参考にしよう」としている。